

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	単位型投信／海外／債券	
信 託 期 間	約7年1カ月間（2016年7月29日～2023年9月5日）	
運 用 方 針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	為替ヘッジあり	イ．ＡＢ米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）（以下「米国投資法人債Ｆ（為替ヘッジあり）」といいます。）の受益証券 ロ．ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
	部 分 為 替ヘッジあり	イ．ＡＢ米国投資法人債ファンド（部分為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）（以下「米国投資法人債Ｆ（部分為替ヘッジあり）」といいます。）の受益証券 ロ．ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
運 用 方 法	為替ヘッジあり	①主として、米国投資法人債Ｆ（為替ヘッジあり）の受益証券を通じて、米国の投資法人債（※）に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。 ※当ファンドにおいて、「米国の投資法人債」とは、米国の金融商品取引所上場の イ．不動産投資法人 ロ．不動産投資信託 が発行する債券等をいいます。 ②当ファンドは、米国投資法人債Ｆ（為替ヘッジあり）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、米国投資法人債Ｆ（為替ヘッジあり）への投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③米国投資法人債Ｆ（為替ヘッジあり）において、保有する外貨建資産については為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。
	部 分 為 替ヘッジあり	①主として、米国投資法人債Ｆ（部分為替ヘッジあり）の受益証券を通じて、米国の投資法人債（※）に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。 ※当ファンドにおいて、「米国の投資法人債」とは、米国の金融商品取引所上場の イ．不動産投資法人 ロ．不動産投資信託 が発行する債券等をいいます。 ②当ファンドは、米国投資法人債Ｆ（部分為替ヘッジあり）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、米国投資法人債Ｆ（部分為替ヘッジあり）への投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③米国投資法人債Ｆ（部分為替ヘッジあり）において、保有する外貨建資産については為替ヘッジを行なうことにより、実質的な円貨比率を70％に近づけることをめざします。
組 入 制 限	投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。	
分 配 方 針	分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれか多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することとめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

ダイワ米国投資法人債ファンド
（為替ヘッジあり／
部分為替ヘッジあり）
2016－07

運用報告書（全体版）
第 1 期
（決算日 2017年3月6日）

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり／部分為替ヘッジあり）2016－07」は、このたび、第1期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託
Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
（営業日の9：00～17：00）
<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<3614>
<3616>

為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

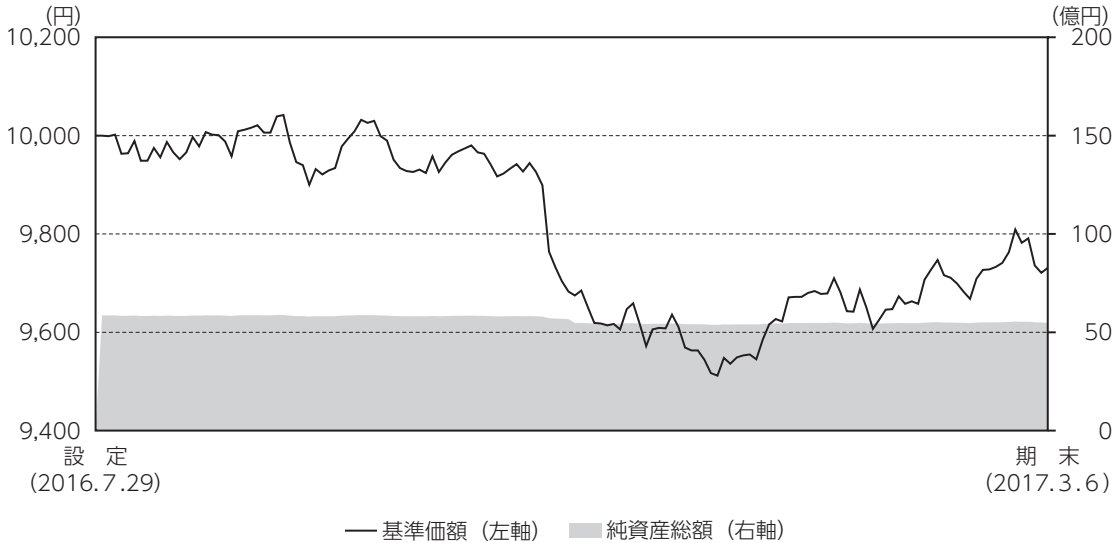
決 算 期	基 準 価 額				受 益 者 利 回	公 社 債 組 入 比 率	投資信託 受益証券 組入比率	元 本 率 残 存 率
	(分配落)	税 込 配 金	期 中 騰 落 額	期 中 騰 落 率				
設 定（2016年7月29日）	円 10,000	円 －	円 －	% －	% －	% －	% －	% 100.0
1 期末（2017年3月6日）	9,681	50	△269	△2.7	△4.4	0.0	99.5	96.5

（注1）基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。
（注2）公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
（注3）公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
（注4）当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



（注）期末の基準価額は分配金込みです。

■基準価額・騰落率

設定時：10,000円

期 末：9,681円（分配金50円）

騰落率：△2.7%（分配金込み）

■基準価額の主な変動要因

米国の投資法人債に投資した結果、主に米国投資法人債の価格の下落がマイナス要因となり、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり） 2016－07

年 月 日	基 準	価 額	公 社 債 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
		騰 落 率		
(設定) 2016年 7 月29日	円	%	%	%
	10,000	－	－	－
7 月末	10,000	0.0	0.0	－
8 月末	10,012	0.1	0.0	99.4
9 月末	10,030	0.3	0.0	99.4
10月末	9,923	△0.8	0.0	99.5
11月末	9,659	△3.4	0.0	99.4
12月末	9,616	△3.8	－	99.4
2017年 1 月末	9,647	△3.5	0.0	99.5
2 月末	9,782	△2.2	0.0	99.5
(期末) 2017年 3 月 6 日	9,731	△2.7	0.0	99.5

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は設定比。

投資環境について

(2016.7.29～2017.3.6)

■米国投資法人債市況

米国投資法人債市況は下落しました。

ファンド設定日（2016年7月29日）から10月末にかけては、米国の利上げ観測などを受けて米国の長期金利が緩やかに上昇（債券価格は下落）した一方で、信用スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は縮小したため、米国投資法人債市況はほぼ横ばいで推移しました。12月中旬にかけては、米国の大統領選挙でトランプ氏が勝利したことで、同氏の政策が米国景気の拡大やインフレの加速をもたらすとの観測から米国長期金利が大きく上昇し、信用スプレッドは縮小したものの米国投資法人債市況は下落しました。期末にかけては、フランス大統領選挙の先行き不透明感の高まりなどにより米国長期金利が低下したことに加え、利回りを求める投資家からの需要が底堅く信用スプレッドが縮小したことから、米国投資法人債市況は上昇しました。

ポートフォリオについて

(2016.7.29～2017.3.6)

■当ファンド

当ファンドは、A B 米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）（以下、「米国投資法人債F（為替ヘッジあり）」といいます。）とダイワ・マネースtock・マザーファンドを投資対象ファンドとするファンド・オブ・ファンズです。当初買い付け後、期を通じて米国投資法人債F（為替ヘッジあり）への投資割合を高位に維持しました。

■米国投資法人債F（為替ヘッジあり）

利回り水準や流動性、発行体の信用力などを考慮して銘柄選定を行ないました。具体的には、発行体の財務内容が安定または改善傾向にある優良銘柄を中心に、割安と考える銘柄を組み入れました。セクター別では、相対的に魅力的な価格水準にある分散投資セクターやヘルスケア・セクター、堅調な業績推移が見込まれるショッピングセンター・セクターなどの比率を高めとしました。また、為替変動リスクの低減を図るため為替ヘッジを行ないました。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行ないました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は50円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が33,005,291円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益33,005,291円（1万口当り58.33円）を分配対象額として、うち28,289,305円（1万口当り50円）を分配金額としております。



今後の運用方針

■当ファンド

米国投資法人債F（為替ヘッジあり）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資します。通常の状態で、米国投資法人債F（為替ヘッジあり）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■米国投資法人債F（為替ヘッジあり）

米国の投資法人債に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。また、為替変動リスクの低減を図るため為替ヘッジを行ないます。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2016.7.29～2017.3.6)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	29円	0.294%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,802円です。
(投 信 会 社)	(16)	(0.163)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目 論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(11)	(0.114)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後 の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(2)	(0.016)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.005	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	29	0.299	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果で
す。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、こ
のファンドに対応するものを含みます。

(注 2) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注 3) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 4) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して 100 を乗じたものです。

■売買および取引の状況

(1) 投資信託受益証券

(2016年7月29日から2017年3月6日まで)

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国 内	A B米国投資法人債ファンド (為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)	千口	千円	千口	千円
		5,871,749.121	5,870,000	237,109.443	230,000

(注1) 金額は受渡し代金。
 (注2) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

(2016年7月29日から2017年3月6日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	千口	千円	千口	千円
	0	1	－	－

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) 当ファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

(2) ダイワ・マネースtock・マザーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

(2016年7月29日から2017年3月6日まで)

決 算 期	期					
区 分	当			期		
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況B	B／A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況D	D／C
公社債	百万円 175,974	百万円 45,111	% 25.6	百万円 －	百万円 －	% －
コール・ローン	5,350,426	－	－	－	－	－

(注) 平均保有割合0.0%
 ※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ペビエ
 ファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当期中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期中における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ァ ン ド 名	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
国内投資信託受益証券 A B米国投資法人債ファンド (為替ヘッジあり) (適格機関投資家専用)	千口	千円	%
	5,634,639.678	5,448,133	99.5

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。
 (注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	口 数	評 価 額
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	千口 0	千円 1

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2017年3月6日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 5,448,133	% 98.7
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	1	0.0
コール・ローン等、その他	74,386	1.3
投資信託財産総額	5,522,520	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年3月6日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	5,522,520,179円
コール・ローン等	74,386,075
投資信託受益証券(評価額)	5,448,133,104
ダイワ・マネースtock・マザーファンド(評価額)	1,000
(B) 負債	44,886,565
未払収益分配金	28,289,305
未払信託報酬	16,321,779
その他未払費用	275,481
(C) 純資産総額(A - B)	5,477,633,614
元本	5,657,861,171
次期繰越損益金	△ 180,227,557
(D) 受益権総口数	5,657,861,171口
1万口当り基準価額(C / D)	9,681円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,681円です。

* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は180,227,557円です。

■損益の状況

当期 自2016年7月29日 至2017年3月6日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	50,477,591円
受取配当金	50,523,564
支払利息	△ 45,973
(B) 有価証券売買損益	△ 7,099,913
売買損	△ 7,099,913
(C) 有価証券評価差損益	△ 184,766,983
(D) 信託報酬等	△ 16,888,947
(E) 当期損益金(A + B + C + D)	△ 158,278,252
(F) 解約差損益金	6,340,000
(G) 合計(E + F)	△ 151,938,252
(H) 収益分配金	△ 28,289,305
次期繰越損益金(G + H)	△ 180,227,557

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注4) 収益分配金の計算過程は5ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	50円

分配金の課税上の取扱いについて

- ・ 分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・ 法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・ 税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・ 課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

部分為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

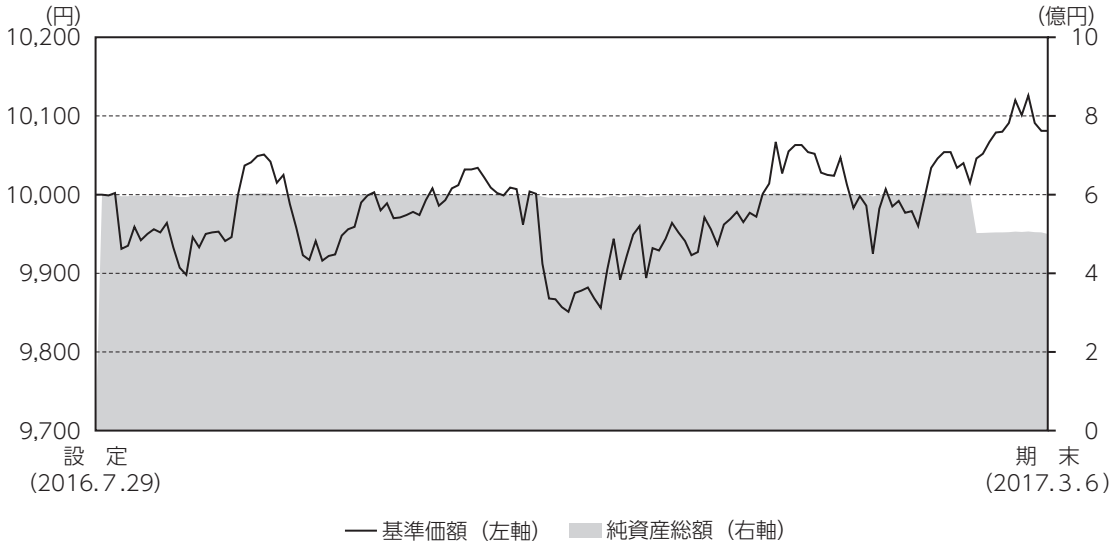
決 算 期	基 準 価 額				受 益 者 利 回	公 社 債 組 入 比 率	投資信託 受益証券 組入比率	元 本 率 残 存 率
	(分配落)	税 込 配 金	期 中 騰 落 額	期 中 騰 落 率				
設 定（2016年7月29日）	円 10,000	円 －	円 －	% －	% －	% －	% －	% 100.0
1 期末（2017年3月6日）	10,001	80	81	0.8	1.3	0.0	99.2	83.3

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。
(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。
(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



（注）期末の基準価額は分配金込みです。

■基準価額・騰落率

設定時：10,000円

期 末：10,001円（分配金80円）

騰落率：0.8%（分配金込み）

■基準価額の主な変動要因

米国の投資法人債に投資した結果、主に為替相場が円安米ドル高となったことがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ米国投資法人債ファンド（部分為替ヘッジあり） 2016－07

年 月 日	基 準	価 額	公 社 債 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
		騰 落 率		
(設定) 2016年 7 月29日	円	%	%	%
	10,000	－	－	－
7 月末	10,000	0.0	0.0	－
8 月末	10,037	0.4	0.0	99.2
9 月末	10,003	0.0	0.0	99.3
10月末	9,999	△0.0	0.0	99.3
11月末	9,949	△0.5	0.0	99.3
12月末	10,014	0.1	－	99.4
2017年 1 月末	9,985	△0.2	0.0	99.4
2 月末	10,101	1.0	0.0	99.2
(期末) 2017年 3 月 6 日	10,081	0.8	0.0	99.2

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は設定比。

投資環境について

(2016.7.29～2017.3.6)

■米国投資法人債市況

米国投資法人債市況は下落しました。

ファンド設定日（2016年7月29日）から10月末にかけては、米国の利上げ観測などを受けて米国の長期金利が緩やかに上昇（債券価格は下落）した一方で、信用スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は縮小したため、米国投資法人債市況はほぼ横ばいで推移しました。12月中旬にかけては、米国の大統領選挙でトランプ氏が勝利したことで、同氏の政策が米国景気の拡大やインフレの加速をもたらすとの観測から米国長期金利が大きく上昇し、信用スプレッドは縮小したものの米国投資法人債市況は下落しました。期末にかけては、フランス大統領選挙の先行き不透明感の高まりなどにより米国長期金利が低下したことに加え、利回りを求める投資家からの需要が底堅く信用スプレッドが縮小したことから、米国投資法人債市況は上昇しました。

■為替相場

為替相場は円安米ドル高となりました。

米ドル円相場は、米国の利上げ観測の強まりやトランプ大統領の経済政策への期待感などから市場のリスク選好度が強まり、円安米ドル高となりました。

ポートフォリオについて

(2016.7.29～2017.3.6)

■当ファンド

当ファンドは、A B 米国投資法人債ファンド（部分為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）（以下、「米国投資法人債F（部分為替ヘッジあり）」といいます。）とダイワ・マネースtock・マザーファンドを投資対象ファンドとするファンド・オブ・ファンズです。当初買い付け後、期を通じて米国投資法人債F（部分為替ヘッジあり）への投資割合を高位に維持しました。

■米国投資法人債F（部分為替ヘッジあり）

利回り水準や流動性、発行体の信用力などを考慮して銘柄選定を行ないました。具体的には、発行体の財務内容が安定または改善傾向にある優良銘柄を中心に、割安と考える銘柄を組み入れました。セクター別では、相対的に魅力的な価格水準にある分散投資セクターやヘルスケア・セクター、堅調な業績推移が見込まれるショッピングセンター・セクターなどの比率を高めとしました。また、実質的な円貨比率を70%に近づけることをめざして為替ヘッジを行ないました。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行ないました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は80円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益4,281,914円が、純資産額の元本超過額4,044,391円を超過しているため、経費控除後の配当等収益4,281,914円（1万口当り85.63円）を分配対象額として、うち4,000,000円（1万口当り80円）を分配金額としております。



今後の運用方針

■当ファンド

米国投資法人債F（部分為替ヘッジあり）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資します。通常の状態で、米国投資法人債F（部分為替ヘッジあり）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■米国投資法人債F（部分為替ヘッジあり）

米国の投資法人債に投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。また、実質的な円貨比率を70%に近づけることをめざして為替ヘッジを行ないます。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

1 万口当りの費用の明細

項 目	当期 (2016.7.29～2017.3.6)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	29円	0.294%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,982円です。
(投 信 会 社)	(16)	(0.163)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目 論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(11)	(0.114)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後 の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(2)	(0.016)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有価証券取引税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.005	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	30	0.299	

(注 1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果で
す。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、こ
のファンドに対応するものを含みます。

(注 2) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注 3) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 4) 比率欄は 1 万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して 100 を乗じたものです。

■売買および取引の状況

(1) 投資信託受益証券

(2016年7月29日から2017年3月6日まで)

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国 内	A B米国投資法人債ファンド（部分為替ヘッジあり） （適格機関投資家専用）	千口	千円	千口	千円
		601,032.576	601,000	104,708.889	104,000

(注1) 金額は受渡し代金。
 (注2) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

(2016年7月29日から2017年3月6日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	千口	千円	千口	千円
	0	1	－	－

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

(1) 当ファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

(2) ダイワ・マネースtock・マザーファンドにおける期中の利害関係人との取引状況

(2016年7月29日から2017年3月6日まで)

決 算 期	期					
区 分	当			期		
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況B	B／A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況D	D／C
公社債	百万円 175,974	百万円 45,111	% 25.6	百万円 －	百万円 －	% －
コール・ローン	5,350,426	－	－	－	－	－

(注) 平均保有割合0.0%
 ※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビ－ファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当期中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券です。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ァ ン ド 名	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
国内投資信託受益証券 A B米国投資法人債ファンド （部分為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）	千口 496,323.687	千円 496,125	% 99.2

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。
 (注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	口 数	評 価 額
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	千口 0	千円 1

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2017年3月6日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円 496,125	% 98.1
ダイワ・マネースtock・マザーファンド	1	0.0
コール・ローン等、その他	9,416	1.9
投資信託財産総額	505,543	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年3月6日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	505,543,147円
コール・ローン等	9,416,990
投資信託受益証券(評価額)	496,125,157
ダイワ・マネースtock・マザーファンド(評価額)	1,000
(B) 負債	5,498,756
未払収益分配金	4,000,000
未払信託報酬	1,470,009
その他未払費用	28,747
(C) 純資産総額(A－B)	500,044,391
元本	500,000,000
次期繰越損益金	44,391
(D) 受益権総口数	500,000,000口
1万口当り基準価額(C／D)	10,001円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,001円です。

■損益の状況

当期 自2016年7月29日 至2017年3月6日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	6,837,573円
受取配当金	6,842,500
支払利息	△ 4,927
(B) 有価証券売買損益	△ 703,129
売買益	16,553
売買損	△ 719,682
(C) 有価証券評価差損益	△ 171,714
(D) 信託報酬等	△ 1,768,339
(E) 当期損益金(A + B + C + D)	4,194,391
(F) 解約差損益金	△ 150,000
(G) 合計(E + F)	4,044,391
(H) 収益分配金	△ 4,000,000
次期繰越損益金(G + H)	44,391

- (注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。
(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。
(注3) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。
(注4) 収益分配金の計算過程は13ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	80円

分配金の課税上の取扱いについて
・ 分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
・ 法人の受益者の場合、税率が異なります。
・ 税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
・ 課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

<補足情報>

当ファンド（ダイワ米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり／部分為替ヘッジあり） 2016－07）が投資対象としている「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の決算日（2016年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2017年3月6日）現在におけるダイワ・マネースtock・マザーファンドの組入資産の内容等を17ページに併せて掲載いたしました。

■ダイワ・マネースtock・マザーファンドの主要な売買銘柄
公 社 債

(2016年7月29日から2017年3月6日まで)

買		付	売		付
銘	柄	金 額	銘	柄	金 額
		千円			千円
613 国庫短期証券	2016/9/12	18,220,258			
645 国庫短期証券	2017/2/20	17,010,400			
611 国庫短期証券	2016/9/5	15,210,394			
642 国庫短期証券	2017/2/6	9,700,144			
629 国庫短期証券	2016/11/28	8,570,294			
609 国庫短期証券	2016/8/22	8,390,173			
610 国庫短期証券	2016/8/29	7,920,152			
619 国庫短期証券	2016/10/11	7,720,160			
607 国庫短期証券	2016/8/15	7,700,132			
632 国庫短期証券	2016/12/12	7,380,262			

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

下記は、2017年3月6日現在におけるダイワ・マネースtock・マザーファンド（41,688,085千口）の内容です。

(1) 国内（邦貨建）公社債（種類別）

2017年3月6日現在								
区 分	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	う ち B B 格 以下組入比率	残 存 期 間 別 組 入 比 率			
					5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満	
国債証券	千円 7,910,000	千円 7,910,184	% 18.9	% －	% －	% －	% 18.9	

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。
(注3) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2) 国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

2017年3月6日現在							
区 分	銘	柄	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日	
国債証券	631 国庫短期証券		% －	千円 1,580,000	千円 1,580,017	2017/03/10	
	649 国庫短期証券		－	4,050,000	4,050,074	2017/03/13	
	651 国庫短期証券		－	2,280,000	2,280,093	2017/03/21	
合 計	銘 柄 数	3銘柄					
	金 額			7,910,000	7,910,184		

(注) 単位未満は切捨て。

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

運用報告書 第7期（決算日 2016年12月9日）

（計算期間 2015年12月10日～2016年12月9日）

ダイワ・マネースtock・マザーファンドの第7期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運 用 方 針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主 要 投 資 対 象	円建ての債券
運 用 方 法	①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 ②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA－2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。
株 式 組 入 制 限	純資産総額の10%以下

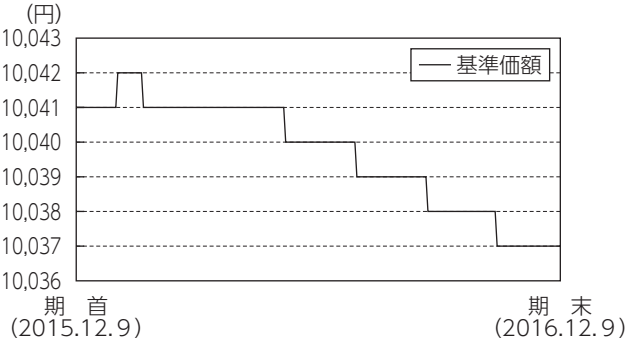
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基 準 価 額 円	騰 落 率		公 社 債 率 組 入 比 率 %
		%	%	
(期首)2015年12月9日	10,041	—	—	51.6
12月末	10,041	0.0	0.0	51.7
2016年1月末	10,042	0.0	0.0	90.7
2月末	10,041	0.0	0.0	51.1
3月末	10,041	0.0	0.0	2.0
4月末	10,041	0.0	0.0	7.5
5月末	10,040	△0.0	△0.0	0.1
6月末	10,040	△0.0	△0.0	2.0
7月末	10,039	△0.0	△0.0	19.3
8月末	10,038	△0.0	△0.0	46.5
9月末	10,038	△0.0	△0.0	26.0
10月末	10,037	△0.0	△0.0	3.4
11月末	10,037	△0.0	△0.0	26.6
(期末)2016年12月9日	10,037	△0.0	△0.0	29.1

(注1) 騰落率は期首比。
(注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
(注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】
期首：10,041円 期末：10,037円 騰落率：△0.0%

【基準価額の主な変動要因】
低金利環境が継続したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市場
期首より、日銀は量的・質的金融緩和を継続し、2016年1月にはマイナス金利付き量的・質的金融緩和の導入を、9月には長短金利操作付き量的・質的金融緩和の導入を決定しました。このような日銀の金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利は低下しました。

◆前期における「今後の運用方針」

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等の短期金融資産への投資により、安定的な運用を行なっております。

◆ポートフォリオについて

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行ないました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (その他)	0 (0)
合 計	0

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。
(注2) 各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2015年12月10日から2016年12月9日まで)

国 内	国債証券	買 付 額	売 付 額
		千円	千円
		215,986,756	2,822,446 (233,210,000)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利分は含まれておりません）。
(注2) ()内は償還による減少分、上段の数字には含まれておりません。
(注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2015年12月10日から2016年12月9日まで)

当 付		期 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
591 国庫短期証券 2016/5/30	18,690,605	575 国庫短期証券 2016/6/10	1,500,603
601 国庫短期証券 2016/7/19	18,510,383	342 2年国債 0.1% 2016/7/15	720,475
613 国庫短期証券 2016/9/12	18,220,258	100 5年国債 0.3% 2016/9/20	601,368
611 国庫短期証券 2016/9/5	15,210,394		
596 国庫短期証券 2016/6/20	11,560,241		
588 国庫短期証券 2016/5/16	9,500,428		
609 国庫短期証券 2016/8/22	8,580,187		
629 国庫短期証券 2016/11/28	8,570,294		
610 国庫短期証券 2016/8/29	7,920,152		
619 国庫短期証券 2016/10/11	7,720,160		

(注1) 金額は受渡し代金（経過利分は含まれておりません）。
(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1) 国内（邦貨建）公社債（種類別）

区 分	当 期		期 末		
	額面金額	評 価 額	組入比率	うち8B格以下組入比率	残存期間別組入比率
	千円	千円	%	%	5年以上 2年以上 2年末満
国債証券	12,370,000	12,370,239	29.1	—	— — 29.1

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。
(注3) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入力しています。

(2) 国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

区 分	銘 柄	当 期		期 末	
		年利利率	額 面 金 額	評 価 額	償還年月日
国債証券	632 国庫短期証券	—	千円 7,380,000	千円 7,380,059	2016/12/12
	634 国庫短期証券	—	2,070,000	2,070,043	2016/12/19
	635 国庫短期証券	—	2,920,000	2,920,135	2016/12/26
合計	銘柄数 3銘柄 金 額	—	12,370,000	12,370,239	—

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2016年12月9日現在

項 目	当 期		期 末	
	評 価 額	比 率	評 価 額	比 率
公社債	千円 12,370,239	% 27.2	千円 12,370,239	% 27.2
コール・ローン等、その他	33,049,576	72.8	33,049,576	72.8
投資信託財産総額	45,419,816	100.0	45,419,816	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2016年12月9日現在

項 目	当 期	期 末
(A) 資産	45,419,816,005円	45,419,816,005円
コール・ローン等	33,049,294,532	33,049,294,532
公社債(評価額)	12,370,239,552	12,370,239,552
その他未収収益	281,921	281,921
(B) 負債	2,970,027,930	2,970,027,930
未払金	1,470,027,930	1,470,027,930
未払解約金	1,500,000,000	1,500,000,000
(C) 純資産総額(A－B)	42,449,788,075	42,449,788,075
元本	42,294,564,193	42,294,564,193
次期繰越損益金	155,223,882	155,223,882
(D) 受益権総口数	42,294,564,193口	42,294,564,193口
1万口当り基準価額(C／D)	10,037円	10,037円

* 期首における元本額は62,535,131,959円、当期中における追加設定元本額は110,785,944,225円、同解約元本額は131,026,511,991円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ米国担保付貸付債権ファンド（為替ヘッジあり）3,021,993円、ダイワ米国担保付貸付債権ファンド（為替ヘッジなし）1,018,149円、ダイワ米国バンクロー

ン・ファンド（為替ヘッジあり）2014－07 9,963円、ダイワ米国バンクロー
ン・ファンド（為替ヘッジあり）2014－09 9,963円、ダイワ米国バンクロー
ン・ファンド（為替ヘッジあり）2014－11 9,962円、ロボット・テクノロ
ジー関連株ファンド－ロボテック－49,795,838円、新興国ソブリン・豪ドル
ファンド（毎月決算型）999円、新興国ソブリン・ブラジルレアルファンド（毎
月決算型）999円、新興国ソブリン・ファンド（為替ヘッジあり／毎月決算型）
999円、アジア高利回り社債ファンド（為替ヘッジあり／毎月決算型）999円、
U S 短期ハイ・イールド社債ファンド（為替ヘッジあり／毎月決算型）
3,988,832円、U S 短期高利回り社債ファンド（為替ヘッジあり／年1回決算
型）4,984円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド－ロボテック－（為
替ヘッジあり）39,849円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド（年1回決算
型）－ロボテック（年1回）－（為替ヘッジあり）3,985円、ダイワ上場投信
－日経平均レバレッジ・インデックス13,026,074,887円、ダイワ上場投信－日
経平均ダブルインバース・インデックス7,057,921,466円、ダイワ上場投信－
T O P I X レバレッジ（2倍）指数1,434,536,786円、ダイワ上場投信－T O
P I X ダブルインバース（－2倍）指数757,087,194円、ダイワ上場投信－日
経平均インバース・インデックス11,055,796,865円、ダイワ上場投信－T O P
I X インバース（－1倍）指数2,230,635,146円、ダイワ上場投信－J P X 日
経400レバレッジ・インデックス901,494,652円、ダイワ上場投信－J P X 日
経400インバース・インデックス4,402,808,262円、ダイワ上場投信－J P X
日経400ダブルインバース・インデックス313,802,045円、ダイワ米国投資法
人債ファンド（為替ヘッジあり）2016－07 997円、ダイワ米国投資法人債
ファンド（部分為替ヘッジあり）2016－07 997円、ダイワ米国投資法人債
ファンド（為替ヘッジあり）2016－10 997円、ダイワ米国投資法人債ファン
ド（部分為替ヘッジあり）2016－10 997円、ダイワ・ブルベア・セレクト・
マネー・ポートフォリオ185,052,355円、ダイワ・ブルベア・セレクト・ドル
高円安ポートフォリオ160,376,323円、ダイワ・ブルベア・セレクト・円高ド
ル安ポートフォリオ76,963,963円、ダイワ日本国債15－20年ラダー型ファン
ド・マネーポートフォリオ－S L T レード－48,811,188円、ダイワ／モルガ
ン・スタンレー新興4カ国不動産関連ファンド－成長の権宜（つちおと）－
11,000,000円、ダイワ／ハリス世界厳選株ファンド・マネー・ポートフォリオ
395,846,364円、ダイワ・アセアン内需関連株ファンド・マネー・ポートフォ
リオ91,481,943円、通貨選択型ダイワ／ミレアセット・グローバル・グレート
コンシューマー株式ファンドⅡ 豪ドル・コース（毎月分配型）4,184,518円、
通貨選択型ダイワ／ミレアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式
ファンドⅡ ブラジル・レアル・コース（毎月分配型）12,952,078円、通貨選
択型ダイワ／ミレアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファン
ドⅡ 通貨セレクト・コース（毎月分配型）4,981,569円、ダイワU S 短期ハ
イ・イールド社債ファンド（為替ヘッジあり／年1回決算型）199,295円、ダイ
ワ米国バンクロン・オープン（為替ヘッジあり）997円、ダイワ米国バンク
ローン・オープン（為替ヘッジなし）997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッ
ド証券ファンド（為替ヘッジあり）997円、ダイワ新グローバル・ハイブリッ
ド証券ファンド（為替ヘッジなし）997円、ダイワ／ミレアセット亜細亜株
ファンド9,958,176円、＜奇数月定額払出型＞ダイワ先進国リートα 為替ヘッ
ジあり49,806円、＜奇数月定額払出型＞ダイワ先進国リートα 為替ヘッジな
し49,806円、通貨選択型ダイワ／ミレアセット・グローバル好配当株α（毎
月分配型）米ドル・コース4,980,080円、通貨選択型ダイワ／ミレアセット・
グローバル好配当株α（毎月分配型）ブラジル・レアル・コース12,948,208円、
通貨選択型ダイワ／ミレアセット・グローバル好配当株α（毎月分配型）通貨
セレクト・コース3,685,259円、ロボット・テクノロジー関連株ファンド（年1
回決算型）－ロボテック（年1回）－100,588円、ダイワ先進国リートα 為
替ヘッジあり（毎月分配型）399,083円、ダイワ先進国リートα 為替ヘッジな
し（毎月分配型）99,771円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 円ヘッジコー
ス（毎月分配型）399,083円、通貨選択型ダイワ先進国リートα 通貨セレクト
コース（毎月分配型）99,771円、ダイワ／ミレアセット・グローバル・グ
レートコンシューマー株式ファンド（為替ヘッジあり）2,088,438円、ダイワ/
ミレアセット・グローバル・グレートコンシューマー株式ファンド（為替ヘッ
ジなし）1,012,911円、ダイワ／ミレアセット・アジア・セクターリーダー株
ファンド10,009,811円、ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャ
パン・トリプルリターンズ－ 日本円・コース（毎月分配型）398,764円、ダイ
ワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－
豪ドル・コース（毎月分配型）99,691円、ダイワ日本株ストラテジーα（通貨
選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－ ブラジル・レアル・コース（毎
月分配型）398,764円、ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパ
ン・トリプルリターンズ－ 米ドル・コース（毎月分配型）398,764円、ダイ
ワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－ 通
貨セレクト・コース（毎月分配型）1,993,820円、通貨選択型ダイワ米国厳選株
ファンド－イーグルアイⅠ－ 予想分配金提示型 日本円・コース1,496,804
円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド－イーグルアイⅡ－ 予想分配金提
示型 豪ドル・コース499,994円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンド－
イーグルアイⅡ－ 予想分配金提示型 ブラジル・レアル・コース1,496,804円、

通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンドーイーグルアイⅡー 予想分配金提示型
 米ドル・コース9,976,045円、通貨選択型ダイワ米国厳選株ファンドーイーグ
 ルアイⅡー 予想分配金提示型 通貨セレクト・コース2,001,563円です。
 * 当期末の計算口数当りの純資産額は10,037円です。

■ 損益の状況

当期 自2015年12月10日 至2016年12月9日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 16,210,382円
受取利息	△ 3,627,074
その他収益金	281,921
支払利息	△ 12,865,229
(B) 有価証券売買損益	△ 1,217,528
売買益	236,035
売買損	△ 1,453,563
(C) その他費用	△ 176,405
(D) 当期損益金(A + B + C)	△ 17,604,315
(E) 前期繰越損益金	256,659,974
(F) 解約差損益金	△525,706,324
(G) 追加信託差損益金	441,874,547
(H) 合計(D + E + F + G)	155,223,882
次期繰越損益金(H)	155,223,882

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。
 (注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。



運用のお知らせ

A B米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）

A B米国投資法人債ファンド（部分為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）

追加型株式投資信託／海外／債券
第1期（決算日2017年2月6日）

●当ファンドの仕組み
当ファンドの仕組みは次のとおりです。
A B米国投資法人債ファンド

商品分類	為替ヘッジあり	
	追加型株式投資信託／海外／債券	部分為替ヘッジあり
信託期間	2016年8月1日（当初設定日）から2023年9月4日までです。	
運用方針	①A B米国投資法人債マザーファンドの受益証券を通じて、米国の投資法人債^(*)に投資することにより、信託財産の成長を目指して運用を行います。 ※当ファンドにおいて、「米国の投資法人債」とは、米国の金融商品取引所上場の 1. 不動産投資法人 2. 不動産投資信託 が発行する債券等をいいます。 ②マザーファンドの受益証券の組入比率は、原則として高位に維持します。 ③マザーファンドにおける米国の投資法人債への投資にあたっては、以下のような点に留意しながら運用を行うことを基本とします。 1. 組み入れる米国の投資法人債については、原則として取得時ににおいてB B B格相当以上の格付けを得ている銘柄に投資を行います。 ※上記の格付けは、原則としてS & P、ムーディーズ、フィッチの3社のうちで最も低い格付け（無格付けを除く）のものを使用し、B B B格相当はB B B－/B a a 3格まで含めます。 2. ポートフォリオの構築にあたっては、原則として、利回り水準や独目の調査により判断した信用力等を考慮して投資対象銘柄を選定します。 3. ポートフォリオの修正デュレーションは、マザーファンドの残存年数+0.5(年)以内とすることを目指します。 実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を目指します。	
主要運用対象	A B米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり）／（部分為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）	A B米国投資法人債マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	A B米国投資法人債マザーファンド	主として、米国の投資法人債に投資することにより、信託財産の成長を目指して運用を行います。
組入制限	A B米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり）／（部分為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）	①外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 ②株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10％以下とします。
	A B米国投資法人債マザーファンド	①外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 ②株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10％以下とします。
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の利益・配当等収益および元利益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定し、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、「基本方針」および「運用方法」に基づいて運用を行います。	

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「A B米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）」「A B米国投資法人債ファンド（部分為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）」は、このたび第1期の決算を行いました。

ここに、当期の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

アライアンス・バーンスタイン株式会社

〒100-0005

東京都千代田区丸の内一丁目8番3号 丸の内トラストタワー本館
お問合せ先 お客様窓口

電話番号 03-3240-8608

（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

A B 米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 券 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 込 分 配	み 金 騰 落	中 率				
(設定日) 2016年8月1日	円 10,000	円 －		% －	% －	% －	% －	百万円 5,820
1 期 (2017年2月6日)	9,592	90	△3.2		95.3	－	－	8,205

(注) 設定日の基準価額は、当初設定時の価額です。また設定日の純資産総額は、当初設定元本総額を表示しております。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」「債券先物比率」「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注) 債券組入比率には、新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 券 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
		騰 落	率			
(設定日) 2016年8月1日	円 10,000		% －	% －	% －	% －
8 月末	10,017	0.2		98.8	－	－
9 月末	10,039	0.4		96.8	－	－
10月末	9,935	△0.7		98.9	－	－
11月末	9,674	△3.3		99.9	－	－
12月末	9,634	△3.7		100.0	－	－
2017年1月末	9,670	△3.3		95.6	－	－
(期 末) 2017年2月6日	9,682	△3.2		95.3	－	－

(注) 期末基準価額は分配金込み、各騰落率は設定日比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」「債券先物比率」「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注) 債券組入比率には、新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

(注) 月末は、各月の最終営業日です。

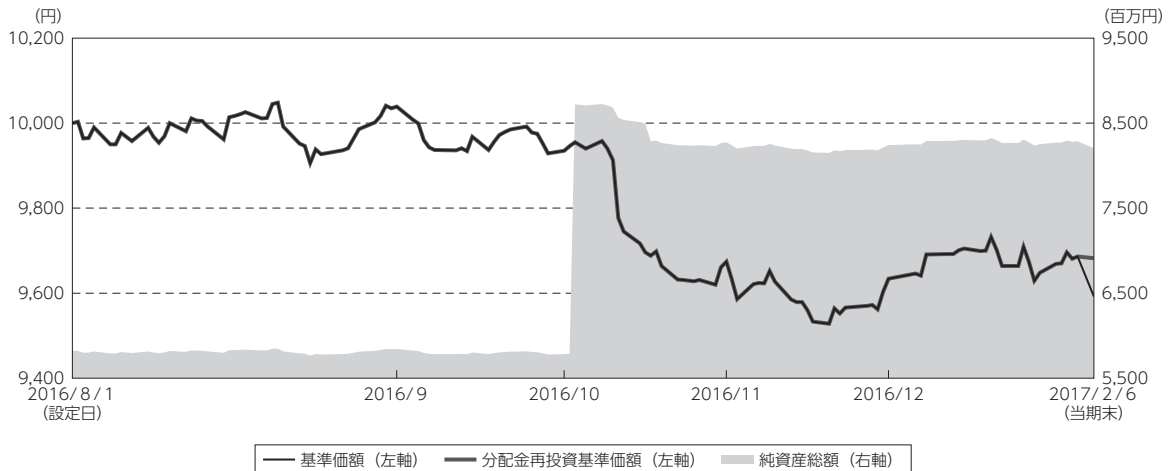
※ベンチマークについて
当ファンドの運用方針と類似した適切な指標が存在しないため、ベンチマーク及び参考指数を設けておりません。

運用経過

A B米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）（以下「当ファンド」ということがあります。）の運用状況をご報告いたします。

期中の基準価額等の推移

（2016年8月1日～2017年2月6日）



設定日：10,000円

期 末：9,592円（既払分配金（税込み）：90円）

騰落率：△3.2%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。

（注）分配金再投資基準価額は、設定日（2016年8月1日）の値が基準価額と同一になるよう指数化しております。

（注）上記期末基準価額は、分配落ち後の価額を表示いたします。

○基準価額等の推移

基準価額（分配金（税込み）再投資）は、設定来では3.2%の下落*となりました。

*基準価額の騰落率は、税込み分配金を決算日の基準価額で全額再投資したと仮定した場合のパフォーマンスを示しています。税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資家の皆様の実際の投資成果を示すものではありません。

○基準価額の主な変動要因

<値上がり要因>

- ・保有する米国投資法人債のクーポン収入

<値下がり要因>

- ・保有する米国投資法人債の価格下落
- ・為替のヘッジコスト

投資環境

（2016年8月1日～2017年2月6日）

当期の米国の投資法人債市場は下落しました。

期初から2016年10月末にかけては、年内の米国の利上げ観測などを受けて米国国債の価格は緩やかに下落（利回りは上昇）して推移しました。米国社債市場においては、原油価格の上昇や米国の金融機関の好決算などを背景に、エネルギー・セクターや金融セクターを中心に信用スプレッドは縮小しました。こうした中、米国金利が上昇した一方で、信用スプレッドが縮小した米国投資法人債市場はほぼ横ばいに推移しました。11月に入ると、米国大統領選挙でトランプ氏が勝利し、財政支出拡大による景気拡大期待から米国国債の価格は大きく下落（利回りは上昇）しました。米国社債市場では、リスク資産への資金流入が強まり幅広いセクターが買われ、信用スプレッドは縮小しました。米国投資法人債市場については、底堅い需要から信用スプレッドが縮小する一方、米国金利が大幅上昇したことで下落しました。12月中旬以降は、米国国債の価格が緩やかな上昇（利回りは下落）基調で推移する一方、米国社債市場では信用スプレッドは小幅に縮小しました。米国投資法人債市場に関しても、利回りを求める投資家の需要は底堅く、信用スプレッドが縮小したことから上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

（2016年8月1日～2017年2月6日）

当ファンドはA B米国投資法人債マザーファンド（以下、「マザーファンド」ということがあります）受益証券への投資を通じて、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ります。

マザーファンドは米国の投資法人債に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。

当ファンドは期を通してほぼ全額をマザーファンド受益証券に投資しました。当ファンドの実質外貨建資産については、高い為替ヘッジ比率を維持しました。

<マザーファンド>

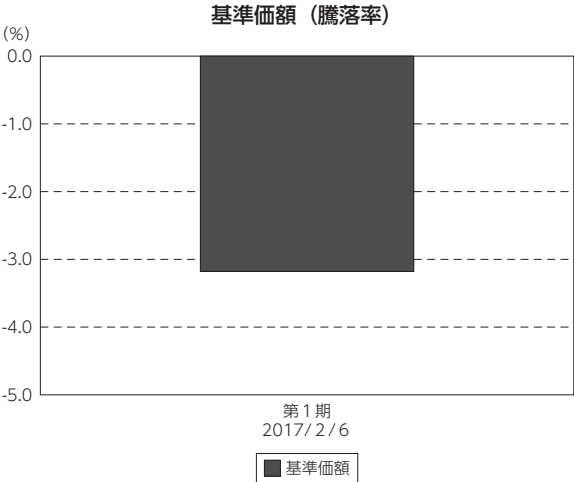
米国の投資法人債（米国の金融商品取引所上場の不動産投資法人または不動産投資信託が発行する債券等）に投資を行います。運用にあたっては、利回り水準や流動性、発行体の信用力等を考慮して銘柄選定を行いました。具体的には、発行体の財務内容が安定または改善傾向にある優良銘柄を中心に組み入れました。

その結果、セクター別では、相対的に魅力的な価格水準にあるヘルスケア・セクターや分散投資セクター、堅調な業績推移が見込まれるショッピングセンター・セクターなどの比率が高めとなっています。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2016年8月1日～2017年2月6日）

当ファンドは、特定の指数を上回ることを目指す運用を行っていないため、ベンチマークを設けておりません。



（注）基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

（2016年8月1日～2017年2月6日）

当期の収益分配については、配当等収益に基づき、基準価額水準、市場動向等を勘案し、90円（1万口当たり、税込み）といたしました。なお、収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産内に留保し「運用の基本方針」に基づいて運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第1期
	2016年8月1日～ 2017年2月6日
当期分配金	90
（対基準価額比率）	0.930%
当期の収益	90
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	80

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の当期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注）「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数以下切り捨てで算出しているため合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。
（注）上記表は、経費控除後の数値です。分配金の計算過程については、「損益の状況」の注記をご覧ください。

今後の運用方針

引き続き、マザーファンド受益証券にほぼ全額投資する方針です。

<マザーファンド>

米国の投資法人債市場については、好調な個人消費を背景とした米国経済の堅調な成長が予想される中、堅調に推移すると考えています。米国リート（不動産投資法人または不動産投資信託）が保有する不動産については、賃貸契約に基づく安定したキャッシュフローと、堅調な国内景気を背景とする高い稼働率が今後も見込まれます。また、米国の不動産の新規供給数が比較的抑制されていることも、今後の賃料の上昇要因であると考えます。更には、米国リートは借入れを抑えながら、収益性の低い既存保有物件の売却を行う一方で、今後より成長が見込める物件に戦略的に投資を行っています。米国内の景気が鈍化した場合でも、収益性を維持できるような保有不動産の運用を行っていることも将来のパフォーマンスを下支えすると考えます。

今後も引き続き、発行体の信用リスクに十分に配慮しながら魅力度の高い銘柄に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行う方針です。

※将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2016年8月1日～2017年2月6日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 18	% 0.183	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(17)	(0.169)	委託した資金の運用、基準価額の算出、法定書類作成等の対価
(販 売 会 社)	(0)	(0.003)	購入後の情報提供、各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.011)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.006	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(0)	(0.002)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.001)	その他は、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	19	0.189	
期中の平均基準価額は、9,828円です。			

- (注) 期中の費用（消費税等の課されるものは消費税等相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。
- (注) その他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2016年8月1日～2017年2月6日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
A B米国投資法人債マザーファンド	千口 8,694,410	千円 8,745,000	千口 1,285,652	千円 1,364,510

(注) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2016年8月1日～2017年2月6日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2017年2月6日現在)

親投資信託残高

銘柄	当 期 末	
	□ 数	評 価 額
A B米国投資法人債マザーファンド	千口 7,408,757	千円 7,951,078

(注) 単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2017年2月6日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
A B米国投資法人債マザーファンド	千円 7,951,078	% 95.8
コール・ローン等、その他	346,763	4.2
投資信託財産総額	8,297,841	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注) A B米国投資法人債マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（8,901,756千円）の投資信託財産総額（9,011,090千円）に対する比率は98.8%です。

(注) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、邦貨換算に使用した為替レート（各1通貨単位当たり）は、1米ドル＝112.37円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2017年2月6日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	16,424,951,299
コール・ローン等	14,928,756
A B米国投資法人債マザーファンド（評価額）	7,951,078,438
未収入金	8,458,944,105
(B) 負債	8,219,452,259
未払金	8,129,333,499
未払収益分配金	76,991,491
未払信託報酬	12,856,606
未払利息	38
その他未払費用	270,625
(C) 純資産総額(A－B)	8,205,499,040
元本	8,554,610,130
次期繰越損益金	△ 349,111,090
(D) 受益権総口数	8,554,610,130口
1万口当たり基準価額(C／D)	9,592円

- (注) 当初設定元本額5,820,000,000円、期中追加設定元本額2,940,880,757円、期中一部解約元本額206,270,627円。当期末現在における1口当たり純資産額0.9592円。
- (注) 当期末現在において純資産総額が元本を下回っており、その差額は△349,111,090円です。

○損益の状況（2016年8月1日～2017年2月6日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 28,458
支払利息	△ 28,458
(B) 有価証券売買損益	△ 243,435,470
売買益	856,485,642
売買損	△1,099,921,112
(C) 信託報酬等	△ 13,148,831
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	△ 256,612,759
(E) 追加信託差損益金	△ 15,506,840
(配当等相当額)	(△ 763)
(売買損益相当額)	(△ 15,506,077)
(F) 計(D＋E)	△ 272,119,599
(G) 収益分配金	△ 76,991,491
次期繰越損益金(F＋G)	△ 349,111,090
追加信託差損益金	△ 15,506,840
(配当等相当額)	(9,861,879)
(売買損益相当額)	(△ 25,368,719)
分配準備積立金	59,329,500
繰越損益金	△ 392,933,750

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
- (注) (C)信託報酬等には信託報酬、監査報酬などの諸費用とそれらに対する消費税等相当額を含めて表示しています。
- (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注) 第1期計算期間末における費用控除後の配当等収益額(136,320,991円)、費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額(0円)、および収益調整金額(9,861,879円)より分配対象収益額は146,182,870円(10,000口当たり170円)であり、うち76,991,491円(10,000口当たり90円)を分配金額としております。

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	90円
----------------	-----

○お知らせ

該当事項はありません。

A B 米国投資法人債ファンド（部分為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			債 券 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 込 分 配	み 金 騰 落	中 率				
(設定日) 2016年8月1日	円 10,000	円 —		% —	% —	% —	% —	百万円 595
1期(2017年2月6日)	9,871	115	△0.1		96.1	—	—	977

(注) 設定日の基準価額は、当初設定時の価額です。また設定日の純資産総額は、当初設定元本総額を表示しております。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」「債券先物比率」「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注) 債券組入比率には、新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 券 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
		騰 落	率			
(設定日) 2016年8月1日	円 10,000		% —	% —	% —	% —
8月末	10,042	0.4		98.6	—	—
9月末	10,012	0.1		97.1	—	—
10月末	10,012	0.1		98.7	—	—
11月末	9,966	△0.3		99.2	—	—
12月末	10,035	0.4		99.4	—	—
2017年1月末	10,010	0.1		96.1	—	—
(期 末) 2017年2月6日	9,986	△0.1		96.1	—	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、各騰落率は設定日比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」「債券先物比率」「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注) 債券組入比率には、新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

(注) 月末は、各月の最終営業日です。

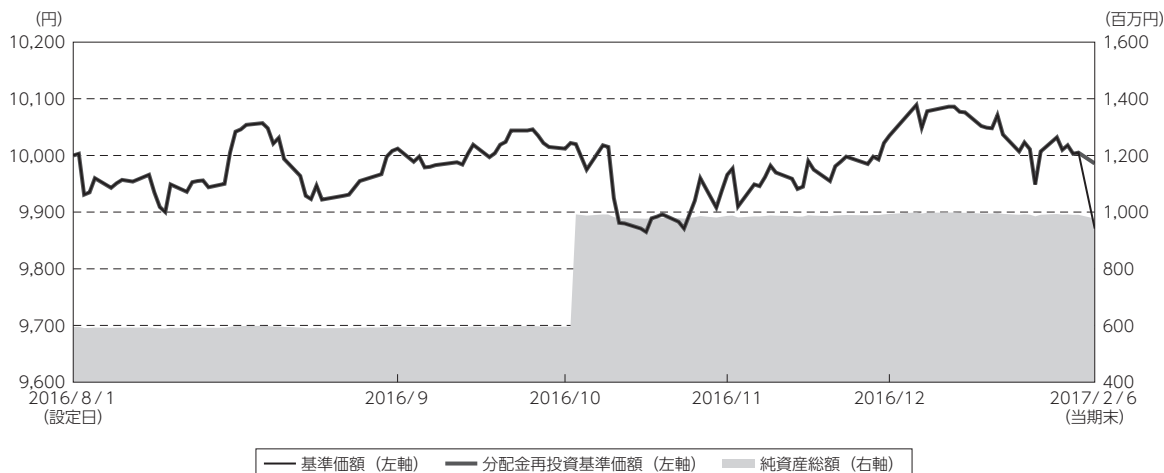
※ベンチマークについて
当ファンドの運用方針と類似した適切な指標が存在しないため、ベンチマーク及び参考指数を設けておりません。

運用経過

A B米国投資法人債ファンド（部分為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）（以下「当ファンド」ということがあります。）の運用状況をご報告いたします。

期中の基準価額等の推移

（2016年8月1日～2017年2月6日）



設定日：10,000円

期 末：9,871円（既払分配金（税込み）：115円）

騰落率：△0.1%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）上記騰落率は、小数第2位を四捨五入して表示しております。

（注）分配金再投資基準価額は、設定日（2016年8月1日）の値が基準価額と同一になるよう指数化しております。

（注）上記期末基準価額は、分配落ち後の価額を表示いたします。

○基準価額等の推移

基準価額（分配金（税込み）再投資）は、設定来では0.1%の下落*となりました。

*基準価額の騰落率は、税込み分配金を決算日の基準価額で全額再投資したと仮定した場合のパフォーマンスを示しています。税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資家の皆様の実際の投資成果を示すものではありません。

○基準価額の主な変動要因

<値上がり要因>

- ・円安／米ドル高が進行したこと
- ・保有する米国投資法人債のクーポン収入

<値下がり要因>

- ・保有する米国投資法人債の価格下落
- ・為替のヘッジコスト

投資環境

（2016年8月1日～2017年2月6日）

当期の米国の投資法人債市場は下落しました。

期初から2016年10月末にかけては、年内の米国の利上げ観測などを受けて米国国債の価格は緩やかに下落（利回りは上昇）して推移しました。米国社債市場においては、原油価格の上昇や米国の金融機関の好決算などを背景に、エネルギー・セクターや金融セクターを中心に信用スプレッドは縮小しました。こうした中、米国金利が上昇した一方で、信用スプレッドが縮小した米国投資法人債市場はほぼ横ばいに推移しました。11月に入ると、米国大統領選挙でトランプ氏が勝利し、財政支出拡大による景気拡大期待から米国国債の価格は大きく下落（利回りは上昇）しました。米国社債市場では、リスク資産への資金流入が強まり幅広いセクターが買われ、信用スプレッドは縮小しました。米国投資法人債市場については、底堅い需要から信用スプレッドが縮小する一方、米国金利が大幅上昇したことで下落しました。12月中旬以降は、米国国債の価格が緩やかな上昇（利回りは下落）基調で推移する一方、米国社債市場では信用スプレッドは小幅に縮小しました。米国投資法人債市場に関しても、利回りを求める投資家の需要は底堅く、信用スプレッドが縮小したことから上昇しました。

為替市場において、円ドル・レートは、期初から年内の米国の利上げ観測を背景に金利が上昇する中、円安ドル高で推移しました。その後11月の米国大統領選挙でトランプ氏が勝利した後は円安が加速しました。

当ファンドのポートフォリオ

（2016年8月1日～2017年2月6日）

当ファンドはA B米国投資法人債マザーファンド（以下、「マザーファンド」ということがあります）受益証券への投資を通じて、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を図ります。

マザーファンドは米国の投資法人債に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。

当ファンドは期を通してほぼ全額をマザーファンド受益証券に投資しました。当ファンドの実質外貨建資産については、70%程度の為替ヘッジ比率を維持しました。

<マザーファンド>

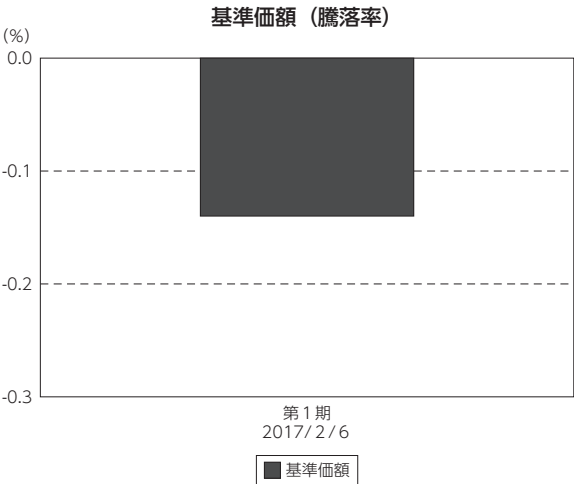
米国の投資法人債（米国の金融商品取引所上場の不動産投資法人または不動産投資信託が発行する債券等）に投資を行います。運用にあたっては、利回り水準や流動性、発行体の信用力等を考慮して銘柄選定を行いました。具体的には、発行体の財務内容が安定または改善傾向にある優良銘柄を中心に組み入れました。

その結果、セクター別では、相対的に魅力的な価格水準にあるヘルスケア・セクターや分散投資セクター、堅調な業績推移が見込まれるショッピングセンター・セクターなどの比率が高めとなっています。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2016年8月1日～2017年2月6日)

当ファンドは、特定の指数を上回ることを目指す運用を行っていないため、ベンチマークを設けておりません。



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

(2016年8月1日～2017年2月6日)

当期の収益分配については、配当等収益に基づき、基準価額水準、市場動向等を勘案し、115円（1万口当たり、税込み）といたしました。なお、収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産内に留保し「運用の基本方針」に基づいて運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第1期
	2016年8月1日～ 2017年2月6日
当期分配金	115
(対基準価額比率)	1.152%
当期の収益	115
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	54

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の当期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数以下切り捨てで算出しているため合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注) 上記表は、経費控除後の数値です。分配金の計算過程については、「損益の状況」の注記をご覧ください。

今後の運用方針

引き続き、マザーファンド受益証券にほぼ全額投資する方針です。

<マザーファンド>

米国の投資法人債市場については、好調な個人消費を背景とした米国経済の堅調な成長が予想される中、堅調に推移すると考えています。米国リート（不動産投資法人または不動産投資信託）が保有する不動産については、賃貸契約に基づく安定したキャッシュフローと、堅調な国内景気を背景とする高い稼働率が今後も見込まれます。また、米国の不動産の新規供給数が比較的抑制されていることも、今後の賃料の上昇要因であると考えます。更には、米国リートは借入れを抑えながら、収益性の低い既存保有物件の売却を行う一方で、今後より成長が見込める物件に戦略的に投資を行っています。米国内の景気が鈍化した場合でも、収益性を維持できるような保有不動産の運用を行っていることも将来のパフォーマンスを下支えすると考えます。

今後も引き続き、発行体の信用リスクに十分に配慮しながら魅力度の高い銘柄に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行う方針です。

※将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2016年 8 月 1 日～2017年 2 月 6 日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	18	0.183	委託した資金の運用、基準価額の算出、法定書類作成等の対価
(販 売 会 社)	(17)	(0.169)	購入後の情報提供、各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(0)	(0.003)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.012	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(0)	(0.002)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(1)	(0.007)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.003)	その他は、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	19	0.195	
期中の平均基準価額は、10,012円です。			

- (注) 期中の費用（消費税等の課されるものは消費税等相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。
- (注) その他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各比率は、1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第 3 位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2016年8月1日～2017年2月6日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
A B米国投資法人債マザーファンド	千口 984,150	千円 991,000	千口 94,120	千円 100,600

(注) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2016年8月1日～2017年2月6日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2017年2月6日現在)

親投資信託残高

銘柄	当 期 末	
	□ 数	評 価 額
A B米国投資法人債マザーファンド	千口 890,030	千円 955,180

(注) 単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2017年2月6日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
A B米国投資法人債マザーファンド	千円 955,180	% 96.5
コール・ローン等、その他	35,083	3.5
投資信託財産総額	990,263	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨て。

(注) A B米国投資法人債マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（8,901,756千円）の投資信託財産総額（9,011,090千円）に対する比率は98.8%です。

(注) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、邦貨換算に使用した為替レート（各1通貨単位当たり）は、1米ドル＝112.37円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2017年2月6日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,650,927,979
コール・ローン等	1,630,188
A B 米国投資法人債マザーファンド（評価額）	955,180,768
未収入金	694,117,023
(B) 負債	673,548,518
未払金	660,664,177
未払収益分配金	11,386,503
未払信託報酬	1,443,784
未払利息	4
その他未払費用	54,050
(C) 純資産総額(A－B)	977,379,461
元本	990,130,713
次期繰越損益金	△ 12,751,252
(D) 受益権総口数	990,130,713口
1 万口当たり基準価額(C／D)	9,871円

(注) 当初設定元本額 595,000,000 円、期中追加設定元本額 395,130,713 円、期中一部解約元本額 0 円。当期末現在における 1 口当たり純資産額 0.9871 円。

(注) 当期末現在において純資産総額が元本を下回っており、その差額は△12,751,252 円です。

○損益の状況（2016年8月1日～2017年2月6日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 2,296
支払利息	△ 2,296
(B) 有価証券売買損益	△ 712,306
売買益	88,327,534
売買損	△89,039,840
(C) 信託報酬等	△ 1,519,434
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	△ 2,234,036
(E) 追加信託差損益金	869,287
(配当等相当額)	(△ 74)
(売買損益相当額)	(869,361)
(F) 計(D＋E)	△ 1,364,749
(G) 収益分配金	△11,386,503
次期繰越損益金(F＋G)	△12,751,252
追加信託差損益金	869,287
(配当等相当額)	(1,355,799)
(売買損益相当額)	(△ 486,512)
分配準備積立金	4,034,900
繰越損益金	△17,655,439

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C)信託報酬等には信託報酬、監査報酬などの諸費用とそれらに対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 第 1 期計算期間末における費用控除後の配当等収益額（15,421,403 円）、費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額（0 円）、および収益調整金額（1,355,799 円）より分配対象収益額は 16,777,202 円（10,000 口当たり 169 円）であり、うち 11,386,503 円（10,000 口当たり 115 円）を分配金額としております。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税込み）	115 円
-----------------	-------

○お知らせ

該当事項はありません。



AB米国投資法人債マザーファンド

第1期（決算日2017年2月6日）
（計算期間：2016年8月1日～2017年2月6日）

●当ファンドの仕組み
当ファンドの仕組みは次のとおりです。

運 用 方 針	①主として、米国の投資法人債^(*)に投資することにより、信託財産の成長を目差して運用を行います。 *当ファンドにおいて、「米国の投資法人債」とは、米国の金融商品取引所上場の 1. 不動産投資法人 2. 不動産投資信託 が発行する債券等をいいます。 ②米国の投資法人債の組み入れについては、原則として取得時においてBBB格相当以上の格付けを得ている銘柄に投資を行います。 *上記の格付けは、原則としてS&P、ムーディーズ、フィッチの3社のうちで最も低い格付け（無格付けを除く）のものを使用し、BBB格相当はBBB-／Baa3格まで含めます。 ③ポートフォリオの構築にあたっては、原則として、利回り水準や独自の調査により判断した信用力等を考慮して投資対象銘柄を選定します。 ④ポートフォリオの修正デュレーションは、マザーファンドの残存年数+0.5(年)以内とすることを目指します。 ⑤米国の投資法人債の組入比率は、高位に維持することを基本とします。
主 要 運 用 対 象	米国の投資法人を主要投資対象とします。
組 入 制 限	①外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 ②株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

アライアンス・バーンスタイン株式会社

〒100-0005
東京都千代田区丸の内一丁目8番3号 丸の内トラストタワー本館
お 問 合 せ 先 お 客 様 窓 口
電 話 番 号 03-3240-8608
（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	債 券 組 入 比 率		債 先 物 比 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		期 騰 落 率	中 率			
(設定日) 2016年 8 月 1 日	円 10,000	% －	% －	% －	% －	百万円 6,415
1 期 (2017年 2 月 6 日)	10,732	7.3	98.4	－	－	8,906

(注) 設定日の基準価額は、当初設定時の価額です。また設定日の純資産総額は、当初設定元本総額を表示しております。

(注) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注) 債券組入比率には、新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	債 券 組 入 比 率		債 先 物 比 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
		騰 落 率	中 率		
(設定日) 2016年 8 月 1 日	円 10,000	% －	% －	% －	% －
8 月末	10,106	1.1	98.0	－	－
9 月末	9,949	△ 0.5	97.7	－	－
10月末	10,219	2.2	98.2	－	－
11月末	10,679	6.8	97.8	－	－
12月末	11,028	10.3	98.1	－	－
2017年 1 月末	10,851	8.5	97.3	－	－
(期 末) 2017年 2 月 6 日	10,732	7.3	98.4	－	－

(注) 騰落率は設定日比です。

(注) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注) 債券組入比率には、新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

※参考指数について
当マザーファンドの運用方針と類似した適切な指標が存在しないため、参考指数を設けておりません。

運用経過

A B米国投資法人債マザーファンド（以下「当マザーファンド」ということがあります。）の運用状況をご報告いたします。

期中の基準価額等の推移

(2016年8月1日～2017年2月6日)

○期中の基準価額の推移



○基準価額等の推移

基準価額は、設定来では7.3%の上昇*となりました。

○基準価額の主な変動要因

<値上がり要因>

- ・円安／米ドル高が進行したこと
- ・保有する米国投資法人債のクーポン収入

<値下がり要因>

- ・保有する米国投資法人債の価格下落

投資環境

(2016年8月1日～2017年2月6日)

当期の米国の投資法人債市場は下落しました。

期初から2016年10月末にかけては、年内の米国の利上げ観測などを受けて米国国債の価格は緩やかに下落（利回りは上昇）して推移しました。米国社債市場においては、原油価格の上昇や米国の金融機関の好決算などを背景に、エネルギー・セクターや金融セクターを中心に信用スプレッドは縮小しました。こうした中、米国金利が上昇した一方で、信用スプレッドが縮小した米国投資法人債市場はほぼ横ばいに推移しました。11月に入ると、米国大統領選挙でトランプ氏が勝利し、財政支出拡大による景気拡大期待から米国国債の価格は大きく下落（利回りは上昇）しました。米国社債市場では、リスク資産への資金流入が強まり幅広いセクターが買われ、信用スプレッドは縮小しました。米国投資法人債市場については、底堅い需要から信用スプレッドが縮小する一方、米国金利が大幅上昇したことで下落しました。12月中旬以降は、米国国債の価格が緩やかな上昇（利回りは下落）基調で推移する一方、米国社債市場では信用スプレッドは小幅に縮小しました。米国投資法人債市場に関しても、利回りを求める投資家の需要は底堅く、信用スプレッドが縮小したことから上昇しました。

為替市場において、円ドル・レートは、期初から年内の米国の利上げ観測を背景に金利が上昇する中、円安ドル高で推移しました。その後11月の米国大統領選挙でトランプ氏が勝利した後は円安が加速しました。

運用概況

(2016年8月1日～2017年2月6日)

当マザーファンドは、米国の投資法人債に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。

米国の投資法人債（米国の金融商品取引所上場の不動産投資法人または不動産投資信託が発行する債券等）に投資を行います。運用にあたっては、利回り水準や流動性、発行体の信用力等を考慮して銘柄選定を行いました。具体的には、発行体の財務内容が安定または改善傾向にある優良銘柄を中心に組み入れました。

その結果、セクター別では、相対的に魅力的な価格水準にあるヘルスケア・セクターや分散投資セクター、堅調な業績推移が見込まれるショッピングセンター・セクターなどの比率が高めとなっています。

今後の運用方針

米国の投資法人債市場については、好調な個人消費を背景とした米国経済の堅調な成長が予想される中、堅調に推移すると考えています。米国リート（不動産投資法人または不動産投資信託）が保有する不動産については、賃貸契約に基づく安定したキャッシュフローと、堅調な国内景気を背景とする高い稼働率が今後も見込まれます。また、米国の不動産の新規供給数が比較的抑制されていることも、今後の賃料の上昇要因であると考えます。更には、米国リートは借入れを抑えながら、収益性の低い既存保有物件の売却を行う一方で、今後より成長が見込める物件に戦略的に投資を行っています。米国内の景気が鈍化した場合でも、収益性を維持できるような保有不動産の運用を行っていることも将来のパフォーマンスを下支えすると考えます。

今後も引き続き、発行体の信用リスクに十分に配慮しながら魅力度の高い銘柄に投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行う方針です。

※将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2016年 8 月 1 日～2017年 2 月 6 日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	円 0 (0)	% 0.002 (0.002)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 その他は、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
	(0)	(0.000)	
	0	0.002	
合 計	0	0.002	
期中の平均基準価額は、10,472円です。			

(注) 期中の費用（消費税等の課されるものは消費税等相当額を含めて表示）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。ただし、平均基準価額は円未満切り捨て。

(注) 各比率は、1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第 3 位未満は四捨五入してあります。

○ 売買及び取引の状況

(2016年 8 月 1 日～2017年 2 月 6 日)

公社債				
		買 付 額		売 付 額
外国	アメリカ	千米ドル 93,099		千米ドル 11,442
		社債券		

(注) 金額は受け渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注) 社債券には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

(注) 単位未満は切り捨て。

○ 利害関係人との取引状況等

(2016年 8 月 1 日～2017年 2 月 6 日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第 1 項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2017年2月6日現在)

外国公社債

(A) 外国（外貨建）公社債 債券種類別開示

区 分	当 期								末		
	額 面 金 額	評 価 額		組 入 比 率	うち B B 格 以下組入比率	残 存 期 間 別 組 入 比 率					
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満			
アメリカ	千米ドル 78,714	千米ドル 77,956	千円 8,760,005	% 98.4	% —	% 93.7	% 4.7	% —			
合 計	78,714	77,956	8,760,005	98.4	—	93.7	4.7	—			

(注) 邦貨換算金額は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 額面・評価額の単位未満は切り捨て。

(注) —印は該当なし。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B) 外国（外貨建）公社債 個別銘柄開示

銘 柄			当 期			末	
			利 率	額 面 金 額	評 価 額		償 還 年 月 日
					外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
アメリカ	普通社債券		%	千米ドル	千米ドル	千円	
		AMERICAN CAMPUS CMNTYS	4.125	600	613	68,902	2024/7/1
		BRANDYWINE OPER PARTNERS	4.1	700	684	76,928	2024/10/1
		BRANDYWINE OPER PARTNERS	4.55	380	367	41,334	2029/10/1
		BRIXMOR OPERATING PART	4.125	3,150	3,147	353,675	2026/6/15
		CARE CAPITAL PROPERTIES	5.125	3,250	3,136	352,471	2026/8/15
		CBL & ASSOCIATES LP	4.6	1,050	972	109,280	2024/10/15
		COLUMBIA PROPERTY TRUST	3.65	2,815	2,683	301,546	2026/8/15
		CORPORATE OFFICE PROP LP	5.0	3,054	3,159	354,983	2025/7/1
		DDR	3.625	2,400	2,310	259,639	2025/2/1
		DDR	4.25	625	627	70,510	2026/2/1
		DIGITAL REALTY TRUST LP	4.75	3,050	3,173	356,646	2025/10/1
		EDUCATION REALTY OPERATI	4.6	3,225	3,226	362,567	2024/12/1
		EPR PROPERTIES	4.5	3,200	3,148	353,801	2025/4/1
		ESSEX PORTFOLIO LP	3.375	600	579	65,114	2026/4/15
		HCP INC	4.0	3,150	3,158	354,910	2025/6/1
		HEALTHCARE REALTY TRUST	3.875	700	683	76,856	2025/5/1
		HEALTHCARE TRUST OF AMER	3.5	3,200	3,045	342,183	2026/8/1
		HOSPITALITY PROPERTIES	5.25	3,000	3,059	343,791	2026/2/15
		HOST HOTELS & RESORTS LP	3.75	2,400	2,394	269,124	2023/10/15
		HOST HOTELS & RESORTS LP	4.0	830	820	92,208	2025/6/15
		KILROY REALTY LP	4.375	575	590	66,339	2025/10/1
		KITE REALTY GROUP LP	4.0	2,735	2,628	295,346	2026/10/1
		LEXINGTON REALTY TRUST	4.4	3,135	3,059	343,793	2024/6/15
		LIBERTY PROPERTY LP	3.75	600	601	67,597	2025/4/1
		OMEGA HEALTHCARE INVESTO	4.375	3,330	3,324	373,555	2023/8/1

A B米国投資法人債マザーファンド

銘柄			当期末				
			利 率	額 面 金 額	評 価 額		償 還 年 月 日
					外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
			%	千 米 ド ル	千 米 ド ル	千 円	
普通社債券	PIEDMONT OPERATING PARTN		4.45	3,185	3,185	357,991	2024/3/15
	RETAIL OPPORTUNITY IN		5.0	1,800	1,846	207,454	2023/12/15
	RETAIL OPPORTUNITY IN		4.0	700	666	74,866	2024/12/15
	RETAIL PROPERTIES OF AME		4.0	3,230	3,049	342,665	2025/3/15
	SELECT INCOME REIT		3.6	700	704	79,137	2020/2/1
	SELECT INCOME REIT		4.15	1,000	996	111,967	2022/2/1
	SENIOR HOUSING PROPERTIE		4.75	3,450	3,465	389,448	2024/5/1
	SOVRAN ACQUISITION LP		3.5	2,400	2,291	257,549	2026/7/1
	SPIRIT REALTY LP		4.45	3,175	3,044	342,150	2026/9/15
	TANGER PROPERTIES LP		3.125	700	653	73,431	2026/9/1
	UDR		4.0	575	585	65,805	2025/10/1
	VENTAS REALTY LP		3.125	600	591	66,457	2023/6/15
	VORNADO REALTY LP		5.0	1,870	2,020	227,013	2022/1/15
	WELLTOWER INC		4.25	575	591	66,487	2026/4/1
	WP CAREY INC		4.6	3,000	3,065	344,469	2024/4/1
合 計						8,760,005	

(注) 邦貨換算金額は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 単位未満は切り捨て。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

○投資信託財産の構成

(2017年2月6日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 8,760,005	% 97.2
コール・ローン等、その他	251,085	2.8
投資信託財産総額	9,011,090	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨て。
(注) 当期末における外貨建純資産（8,901,756千円）の投資信託財産総額（9,011,090千円）に対する比率は98.8％です。
(注) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、邦貨換算に使用した為替レート（各1通貨単位当たり）は、1米ドル＝112.37円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2017年2月6日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	9,011,090,048
コール・ローン等	150,669,325
公社債（評価額）	8,760,005,863
未収利息	85,127,255
前払費用	15,287,605
(B) 負債	104,500,369
未払解約金	104,500,000
未払利息	284
その他未払費用	85
(C) 純資産総額(A－B)	8,906,589,679
元本	8,298,787,930
次期繰越損益金	607,801,749
(D) 受益権総口数	8,298,787,930口
1万口当たり基準価額(C／D)	10,732円

(注) 当初設定元本額6,415,000,000円、期中追加設定元本額3,263,561,322円、期中一部解約元本額1,379,773,392円。当期末現在における1口当たり純資産額1.0732円。
(注) 投資信託期末現在において、当親投資信託受益証券を組み入れているベビーファンドの組入元本額の内訳は、下記の通りです。

＜組入元本額の内訳＞

A B米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）	7,408,757,397円
A B米国投資法人債ファンド（部分為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）	890,030,533円

○お知らせ

該当事項はありません。

○損益の状況 (2016年8月1日～2017年2月6日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	170,366,915
受取利息	170,421,736
支払利息	△ 54,821
(B) 有価証券売買損益	465,489,562
売買益	881,246,402
売買損	△415,756,840
(C) 保管費用等	△ 156,798
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	635,699,679
(E) 追加信託差損益金	57,438,678
(F) 解約差損益金	△ 85,336,608
(G) 計(D＋E＋F)	607,801,749
次期繰越損益金(G)	607,801,749

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。